

授業で使える当館所蔵地図

No. 94 『 MOSCVA 』

作成年：不明

サイズ：33×42cm

作者：Merian（作）

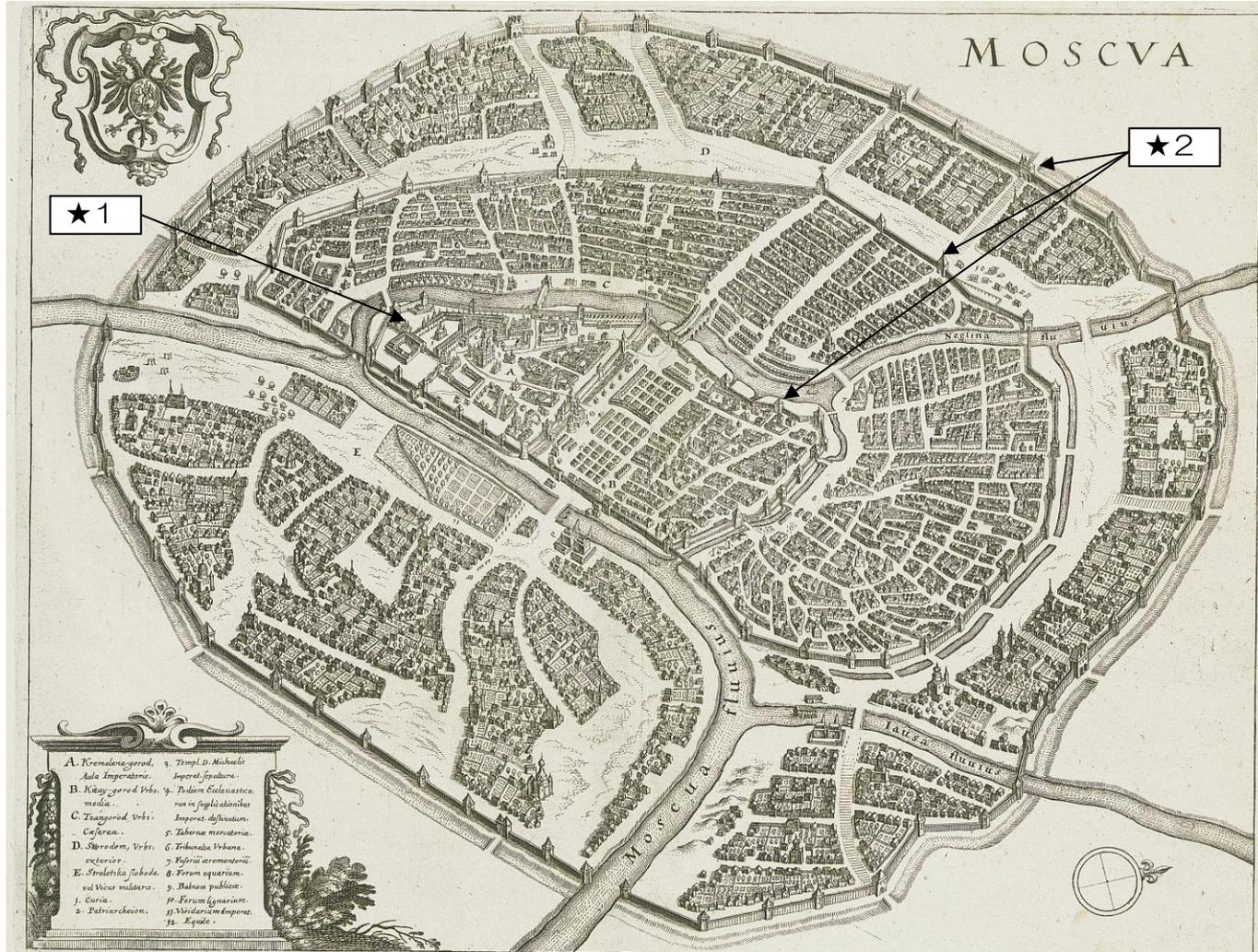
『 大連（1：10000） 』

作成年：1924年

サイズ：64×96cm

作者：陸地測量部

No.1



【解説】

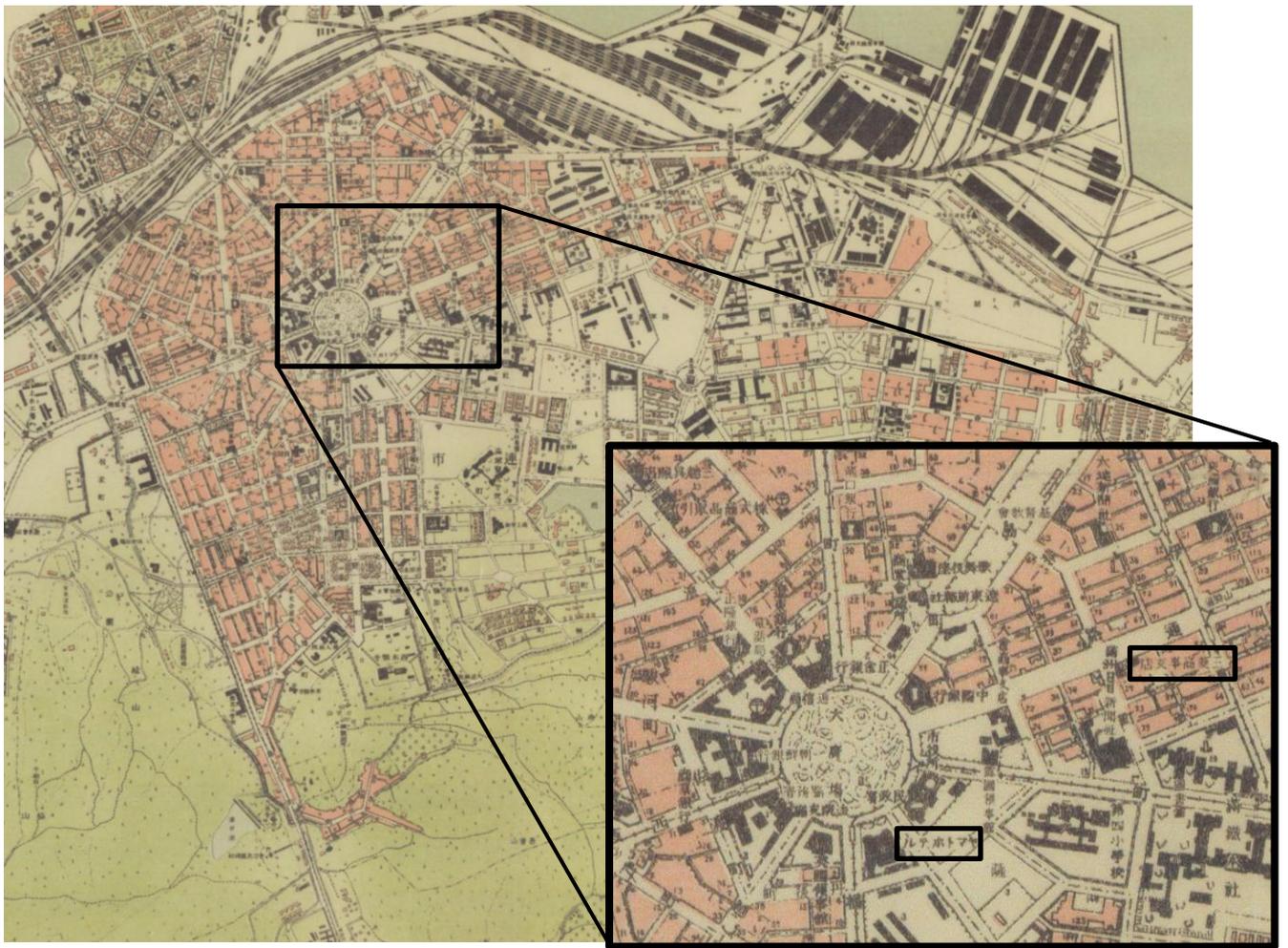
都市を道路の形態によって分類するとモスクワは放射環状路型の都市に分類される。モスクワは市街地が城壁に囲まれた古代の城塞都市に起源をもち、環状型の道路はもともと城壁だった部分が現在は取り壊されて道路になっている。放射環状路型の都市は中心部に宮殿や記念碑を置き、そこを中心に放射状と環状の道路を敷いているのが特徴である。都心部へ流入する交通を分散導入させることにより、交通の円滑化を図ることができる。

★1 クレムリン宮殿

モスクワ川沿いにある旧ロシア帝国の宮殿。現在もロシア連邦の大統領府や大統領官邸が設置されている。

★2 城壁

クレムリン宮殿を囲むように幾重にも城壁が作られていることが読みとれる。現在の地図と比較すると現在城壁はなくなり、当時城壁だった場所は現在道路になっていることが読みとれる。



【解説】

大連は日清戦争の後ロシアの租借地になった。ロシアは商業港としてヨーロッパの商業都市パリを参考に都市建設を開始する。その後日露戦争が勃発して日本が大連を租借地としてロシアから引継ぐ形で日本が大連の都市建設を行った。ロシアが大連の都市計画を行っていたところは建物がほとんどなく、道路だけが建設されていた。道路の形状は大広場を中心とした放射環状路になっている。街の中心である大広場の周辺には三菱商事支店やヤマトホテルがあったことがわかる。

【利用の例】

○地理探求

都市形態を学習する単元で活用できる。

古い歴史を持つヨーロッパの都市では中心点となる場所に円形の広場に宮殿や聖堂などのランドマークがあり、放射状と環状の街路になっていることが特徴である。現在の地図と比較することで環状の道路になっているところはもともと城壁だった場合が多いことがわかる。

○日本史探究

日清・日露戦争を学習する単元で活用できる。

大連を含む遼東半島は日清戦争後、日本が租借することになっていたが三国干渉によってロシアの租借地となった。その後、日露戦争後遼東半島の租借権を日本が獲得し、日本はロシアの都市計画を利用して大連の都市建設を行ったことが読み取れる。

【参考文献】

『図説「満州」都市物語』 西澤 康彦 河出書房新社 1996年
『大連と中国・東北歴史散歩』 邸 景一 日経BP企画 2007年